

じゅしゅう

元旦会 厳修

令和二年一月一日、新しい年の始まりとともに、元旦会の法要をおつとめさせていただきました。今回から日程を変更して一日だけの開催となりましたが、たくさんのお参りをいただきました。

ご法話は浪速区正覚寺のご住職、寺西寛水先生でした。先生のご法話は節談説教と言われるもので、立って話されるのではなく、高座の上に座ったままで、時に節を交えながらご法話をしてくださいました。ご讚題は阿弥陀経より、「池の中の蓮華は、大きな車輪のごとし、青色は青光

黄色は黄光、赤色は赤光、白色は白光にして、微妙香潔なり、舍利弗、極楽国土は、かくのごとき、功德莊嚴の成就せり」
極楽浄土という世界には、大きな池があつて、そこには蓮の花が咲いている。その花は君や私のいのち。私たちのいのちが終わつたら、極楽浄土に蓮の花が咲いて、そこに仏さまと生まれていくのです。
そしてそれぞれの花からは、青色は青い光を、黄色は黄色い光を放ち、それぞれに素晴らしいのだとお釈迦さまは説かれておられます。

ともすれば、私たちは比べたり比べられたり、選ばれたり捨てられたりする世の中を生きています。人を裁くこともしてしまふし、他人だけでなく、自分も傷つけてしまうような生き方しかできていないのではないのでしょうか。
そんなあなたのために浄土を仕上げました。決してはからない、決して比べないいのちの世界。そんなお浄土を準備し、私を生まれさせると働いておられるのが大慈大悲の阿弥陀さま。私たちはそのまま素晴らしく、またそれぞれがそれぞれを輝かせているのだと、阿弥陀経のお言葉、また「世界に一つだけの花」という歌を味わいながらお取り次ぎいただきました。

第10号
(通算350号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350



さいた さいた

チューリップの花が

ならんだ ならんだ

あかしろ きいろ

どの花見ても

きれいだな

御文章に聞く(第8回)

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきたいと思います。前回は「一念発起入正定之聚」を中心にお話し致しました。一念発起とは信心が初めておこったとき、つまり阿弥陀さまの願いをそのまま聞かせていただいで、お任せしますと疑う必要がなくなつたときに、正定聚という、浄土に往生することが正しく定まり、仏になることが決定している仲間になるということでした。

聖人一流章(五帖第十通)
その位を・一念発起入正定之聚とも釈し、そのうえの称名念仏は・如来わが往生を定めたまいし、御恩報尽の念仏と・こころうべきなり、あなかしこ あなかしこ

私がお浄土に往生する因は、決して自分の力で積んでいくものではありません。何一つかなわない私のために、阿弥陀さまは、全て整えたから任せておくれと、南無阿弥陀仏という言葉の仏さまとなつて、私の口に、私の耳に届いておられます。それは、私のことを必ず救う、間違はなくお浄土に生まれさせるから、いのち尽きるそれまでは、精一杯、安心して生きていつてほしいという阿弥陀さまの願いです。その願いに出会い、それでは私のいのちはお任せします、といただく中で私の口から出てくるお念仏は、有難うございますという報恩感謝のお念仏と味わうことであります、蓮如上人はお伝えくださいました。

阿修羅は仏教を守護する戦闘神。かつては正義を司る神だったが、正義のために戦ううちに心を失い悪神となつてしまつた。しかし、釈迦の教えに出会うことで、正義は自己の欲求によつて生まれるもので常に正しいわけではないということを知り、仏教に帰依することとなつた。阿修羅の顔は、そのことに気づかされた喜び、後悔、懺悔をあらわすために三面となつている。

仏教語辞典

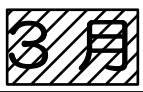


阿修羅
阿修羅は仏教を守護する戦闘神。かつては正義を司る神だったが、正義のために戦ううちに心を失い悪神となつてしまつた。しかし、釈迦の教えに出会うことで、正義は自己の欲求によつて生まれるもので常に正しいわけではないということを知り、仏教に帰依することとなつた。阿修羅の顔は、そのことに気づかされた喜び、後悔、懺悔をあらわすために三面となつている。

『気になる仏教語辞典』
著・麻田弘潤 誠文堂新光社
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅごう」をお届け致します。一月の行事は仏教文化講演会です。初めて企画をさせていただいたものですが、第一回は藤田翔一弁護士をお迎えして、終活について一緒に考えたいと思つております。最近終活やエンディングノートなどの言葉をよく聞くようになりませんが、それでも「死」というものは縁起でもないと思われられているのではないのでしょうか。でも、いのちについて解決し、今語り合うことが、残される者も先に逝く者にとつても迷わなく生きる方法です。ぜひご参加をお願い致します。(釋法道)



春季彼岸会
日時 三月二十日(祝) 十四時より
講師 朝山大俊先生
場所 長原 浄覚寺

日時 二月九日(日) 十四時より
行事 第一回 仏教文化講演会
講師 藤田翔一 弁護士
場所 長原 浄覚寺
内容 終活について
参加費無料
遺言や相続、お墓やお仏壇のことなど
いつもの法要とは違い、法律家が疑問に答えていただけます
(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)

行事案内